学校番号	323

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ｃ	単位数	３単位	年次	３年次
使用教科書	高等学校 数学Ｃ(数研出版)						
副教材等	4プロセス　数学Ⅲ＋C(数研出版) チャート式　基礎からの数学Ⅲ＋C(数研出版) キートレーニング数学演習Ⅰ・II・A・B・C〔ベクトル〕受験編(数研出版)						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

数学Ｃでは、ベクトル、平面上の曲線といった幾何的な要素を含む数学的な現象を扱います。そのため、現象をイメージし、現象を考察し、処理する必要がありますので、毎時の授業において、ポイントをしっかり押さえるとともに、家庭学習を十分に行ってください。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
ベクトル，平面上の曲線と複素数平面について理解させ，基礎的な知識の習得と技能を身につける。
【思考力、判断力、表現力等】
数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学的に考察する能力を身につける。
【学びに向かう力、人間性等】
数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を身につける。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	ベクトル，平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	大きさと向きをもった量に着目し,演算法則やその図形的な意味を考察する力,図形や図形の構造に着目し,それらの性質を統合的・発展的に考察する力,数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度,粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度,問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	平面ベクトル	ベクトルの演算 ベクトルの成分	a：平面上のベクトルの意味，相等，和，差，実数倍，位置ベクトル，ベクトルの成分表示について理解している。 b：実数などの演算の法則と関連付けて，ベクトルの演算法則を考察している。 c：ベクトルの演算に興味をもち，数式の演算法則との類似点を考察し、成分表示されたベクトルの演算法則を，ベクトルの演算法則から導き出そうとする。	考査	考査	提出物 課題
	平面ベクトル	ベクトルの内積 位置ベクトル ベクトルの図形への応用 図形のベクトルによる表示	a：ベクトルの内積及びその基本的な性質について理解している。 b：ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて，平面図形の性質を見いだし，多面的に考察している。 c：内積の公式を証明しようとしたり、様々な図形の考察にベクトルを活用しようとするなど、既習の事柄を用いて様々な場面で活かそうとしている。	考査	考査	提出物 課題
	空間ベクトル	空間の点 空間ベクトル ベクトルの成分 ベクトルの内積 ベクトルの図形への応用	a：座標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張できることを理解している。 b：数量や図形及びそれらの関係に着目し，日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え，ベクトルやその内積の考えを問題解決に活用できる。 c:様々な図形の考察にベクトルを活用しようとするなど、既習の事柄を用いて様々な場面で活かそうとしている。	考査	考査	提出物 課題

2学期	複素数平面	複素数平面 複素数の極形式 ド･モアブルの定理 複素数と図形	a：複素数平面と複素数の極形式，複素数の実数倍，和，差，積及び商の図形的な意味を理解している。 極座標の意味及び曲線が極方程式で表されることについて理解している。 また、ド・モアブルの定理について理解している b：複素数平面における図形の移動などと関連付けて，複素数の演算や累乗根などの意味を考察できる。 また、複素数平面の考えを問題解決に活用したり，解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察できる。 c：複素数平面の定義から，複素数の和，差や実数倍などが複素数平面上で何を意味するか自ら考察しよう、など各内容について、既習事項を用いて数学的な事象について興味を持って数学的に処理しようとしている。	考査	考査	提出物 課題
3学期	二次曲線	放物線 楕円 双曲線 2次曲線の平行移動	a：放物線，楕円，双曲線が二次式で表されること及びそれらの二次曲線の基本的な性質について理解している。 b：放物線，楕円，双曲線を相互に関連付けて捉え，考察すること。日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え，数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすること c:放物線、楕円、双曲線について興味を持ち、深く学ぼうとする。また、興味を持って、既習の事項を用いて日常生活の現象を数学的に処理しようとする。	課題 提出物 小テスト	課題 提出物 小テスト	課題 提出物 小テスト

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度